

● 課題③: 基本構想等に記載のない事柄に関する独自提案

・他者と差別化されたセールスポイント

学校と村の絆を深め、赤村の「持続性」に貢献する7つの提案

1 持続性への貢献 村の魅力の発信

① 学校を中心とした地域コミュニティの形成: 図書室での読み聞かせやゆすの木モールでの赤村縁太鼓の発表会、ひかげ広場でのマルシェなど、多彩な地域イベントが開催できる学校とします。



図 3-1: 北側外観。地域イベントや車での登下校を見据えた顔づくり

② 特別教室の地域開放: 村の貴重な公共施設を有効活用できるように特別教室を校舎の東側に集約し、段階的なセキュリティラインを設けることで、将来的には子ども達だけでなく、地域住民も特別教室を利用できる計画とします。

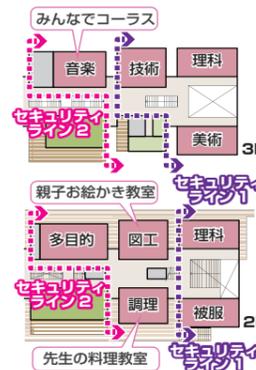


図 3-2: 特別教室の地域開放



図 3-3: 魅力の発信による近隣住民と交流の促進

③ 赤村の魅力を全国に発信: 赤村では、「DO YOU 農?」をはじめとする、地域と近隣住民や観光客が交流するイベントがあります。新しい学校においても、校庭や校舎内に赤村の魅力体験できる場を整備し、農業体験イベントや山村留学など近隣住民を対象としたイベントが行える計画とします。赤村での教育や子育ての魅力発信を通して、近隣住民の山村留学や移住のきっかけを作ります。

2 郷土愛の育成 赤村で育つ時間を誇りに感じる校舎

① 既存樹木の活用: 既存校舎南側の既存樹木を子ども達や地域住民を迎える記念樹として残し、既存施設の記憶を継承します。



図 3-4: 既存樹木の活用

② 地域産材の活用: 校舎の内装には、地場産の木質系材料を積極的に採用します。木の温もりや匂い、質感を感じることが出来る居心地のよい空間づくりを行います。



図 3-5: 弊社の木質化の実績

③ 赤村になじむサイン: 村の木・花(ゆすの木、春蘭)、みつあんきょうや石坂トンネルなどをモチーフとしたサインを計画します。



図 3-6: 赤村らしいサイン計画

④ 食育を通じた地産地消: みんなのファームや食育テラスで育てた作物を食べる経験を通して「食」について学び、子ども達の地産地消の精神を育みます。

3 みんなにやさしい校舎 子どもから高齢者まで使いやすい校舎

① 児童の生活事故を防止し、先生も見守りやすい施設: 活発な子どもの活動を支えるための安全に配慮した工夫により、未然の事故を防ぐ計画とします。

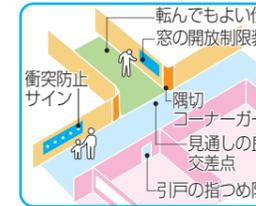


図 3-7: 子どもたちの安全を支える工夫

② 誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの実施と衛生的な環境づくり: 子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい計画とします。また、感染症対策として衛生的な学校づくりを行います。



図 3-8: バリアフリーデザイン

- ・見通しの良い交差点: 廊下の交差点は隅切や窓を設け、生徒同士の衝突事故防止
- ・コーナーガードの設置: 通行量の多い廊下などにはコーナーガードを設置し事故防止
- ・窓の開放制限装置: 外部に面する窓には開放制限装置を設け転落・滑落を防止
- ・引戸の指詰め防止: 引戸には凹凸を設けず、また端部にゴムを設け、指詰め事故を防止

- ・LGBT 対応トイレ: LGBT に配慮したサインや配置計画とし多目的トイレも併設
- ・アレルギー配慮の仕上: アレルギーやシックハウスに配慮した仕上げ材を選定
- ・センサー式水栓: 手洗いは非接触型のセンサー式水栓とし感染症を予防
- ・車いす対応家具: トイレの手洗いや特別教室の家具などを車いす対応とする

4 防災計画 災害に強く防災拠点となる学校づくり

① 耐震安全性の確保: 耐震安全性は一般施設の1.25倍とします。また、非構造部材や設備機器類の十分な耐震性を確保し、災害時の指定避難所としての機能を遂行します。

- 計画 ① 震災後も避難所利用できる耐震・インフラ計画
- 日常 ② 学校と地域開放のエリアを明確にゾーニング
- 防災 ③ 避難所への動線を明確に示し、複数ルート確保
- 災害 ④ 物資搬入・荷まどき等の作業スペース確保
- BCP ⑤ 早期の学校再開のため、避難所エリアを分離

② 減災力・防災力の強化: 日常の取組から災害時の対応策・BCPなど段階的な備えにより、村を守る防災拠点として機動力が高い学校とします。

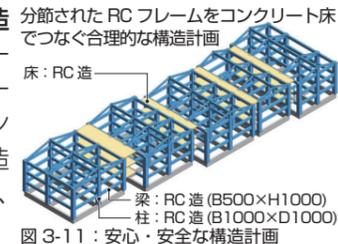


図 3-9: 段階的な防災計画

③ 円滑な避難所運営を可能とする2つのピロティ空間: 「ゆすの木モール」や「ひかげ広場」で、災害時の物資の受入・分配やボランティアの受付などが行える計画とします。

5 構造計画 合理的で、安心安全な構造計画

① 安全で耐震性の高い構造計画: 分節されたRCフレームをコンクリート床でつなぐ合理的な構造計画。床: RC造。梁: RC造(B500×H1000)。柱: RC造(B1000×D1000)。



② 地盤特性を踏まえた地業計画: 液状化の恐れのない地盤と予想されるため、地盤改良による直接基礎も含めた比較検討を行い、コスト面で優れた計画とします。田川郡の複雑な地盤に対応するため、念入りにボーリング調査を実施し、基礎施工時のコストアップを防ぎます。

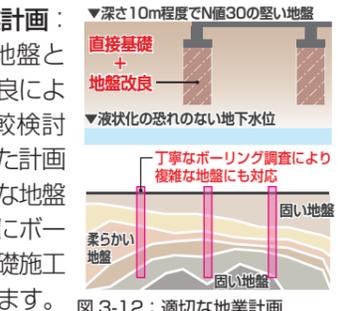


図 3-12: 適切な地業計画

③ 将来変更を想定した荷重設定: 予め将来のレイアウトや用途変更を想定し、ヘビーデューティーゾーン(重荷重設定範囲)を設定することで、改修にかかる手間やコストを低減します。

6 ライフサイクルコストの削減 品質の確保と適切なコストコントロール

① イニシャルコストの削減: 基本設計と実施設計のフェーズ毎に、適切なコストコントロールを行い、品質を確保しながら、建設費の削減を行います。

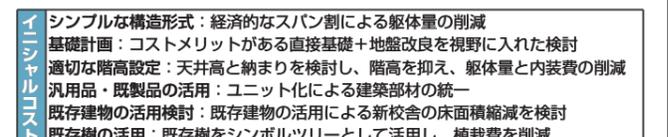


図 3-13: イニシャルコスト削減の方法

② ランニングコストの削減: 学校建築のエネルギー消費特性や地域の気候に着目した環境負荷低減策により、運営や維持管理を見据えたランニングコストの削減を図ります。

③ 補助事業の活用: 環境配慮型の学校として、省エネルギー・省資源型などのエコスクール・プラスの認定を検討します。

④ 避難長期化時の早期学校再開: 避難が長期化した場合でも、早期に学校が再開できるように避難所の独立運営が可能な計画とします。

7 既存施設の活用 経済性・地球環境に配慮した既存施設の活用

① 既存屋内運動場の合理的な改修: 屋内運動場の屋根・空調改修では、費用対効果を考慮した上で十分な比較検討を行い、機能的かつ合理的な改修方法を提案します。

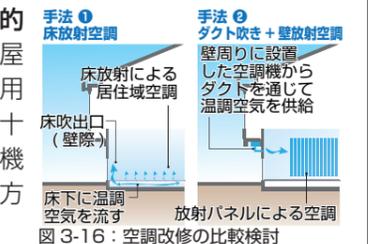


図 3-16: 空調改修の比較検討

② 既存木工工作室・被服室の活用: 多数のリニューアル・長寿命化活用の実績や知見を活かし、既存棟の一部を地域の拠点となる「みんなの家」として転用する方法を検討します。既存施設の現況を十分に調査し、個別最適解を導きます。



図 3-17: 既存施設の転用イメージ